

自分だけの平清水焼 焼き物体験



個性を生かして平清水焼を制作

B・C・G・J・K・L・M 土を平らにする。その後縁を作ったお皿のヒビがなくなるようにツルツルになるまでお皿を布でなでる。ヒビがあると、焼いた際に割れてしまうこともあるそう。お皿の表面には、葉っぱで模様をつけたり、絵を描いたりそれぞれ思い思いにデザインしていた。

(ひらしみずやき)という千歳山のおもて採れる土を使用した山形県伝統の焼き物だ。平清水焼は、お皿、湯飲み、湯呑みなど様々な形を自由に作ることができる。まず1人1つ粘土が配られ、それを自分で思い描く形にしていく。お皿を作る場合は、まず粘

米どころの知恵 味噌作り体験



バケツに味噌を入れるときは空気を含まないことがミソ

A・F・H・I組が長年続く蔵王スキー修学旅行の中で初の試みとなった味噌作り体験を行った。山形市蔵王コミュニティセンターに、地元で味噌作りを営む「さとみの漬物講座」の方々を招き、味噌の手順を丁寧に教わった。

まず最初に、長崎県五島列島の塩と地元山形県産の米麹を手でよく混ぜる。次に蒸した大豆を足よく踏み潰し、先ほど混ぜた米麹と少量の水、発酵を促すために発酵済みの味噌を入れて、再び足で潰す。本来、味噌の原価が高くなるのを防ぐため、大豆の6割程度の量の米麹を用いる6割こうじが主流だそうだが、今回は大豆の1.8倍もの麹を使う18割こうじで実習させてもらった。合わせたものをバケツに入れて空気を抜

山形の名所を訪ねて 市内観光

D・E組は各クラス2チームに分かれ、ボランティアガイドさんと共に山形市内を観光した。バスでの移動中もバスガイドさんが方言の話などをして下さり、充実した時間に。生徒たちは興味津々な様子で話を聞き、風景を写真に収めるなどして、山形の面白さや魅力に触れた。



最上義光騎馬像に圧巻される

文翔館近くの湯殿山神社には牛の銅像のなでた部分が良いかなと願う牛があった。生徒たちは頭や、スキーで痛めた部分をさすっていた。最後に移動した旧県庁舎である山形県郷土館の文翔館は大正5年に建てられたレンガ造りの建物で、重要文化財に指定されている。豪華な内装の講堂や、映画『ろくにん』の舞台にもなった知事室を見て回った。(菘)

5日間のスケジュール	
1日目~3日目	スキー講習
4日目	全山ツアー・レク
5日目	焼き物体験・味噌作り・市内観光

56回生 ただいま! 蔵王 蔵王スキー修学旅行 1.27 (Mon)~1.31 (Fri)

地元テレビで取り上げられました



「さくらんぼテレビ」で実際に放映された時の様子

1日目の夕方、宿のテレビをつけてみるとそこには錦城生の姿が…。今回「1年あけて錦城生が再び蔵王へ来る」ということで開校式と講習中、山形県のみで放送されている「さくらんぼテレビ」のカメラが入りました。ニュースでは生徒が5日間の抱負を語る様子や、スキーを滑っている様子などが放送されました。(杏)

インストラクターの想いとは

実習を行った4日間、初心者も経験者も蔵王ハイムスキー学校のインストラクターの方々に指導をしていただいた。実習を終えインストラクターの方に錦城生と過ごした感想や、感じた錦城生のイメージなどをインタビューした。(権・蓮)



「楽しみながらスキーを学んでほしいです」

W13班を担当した藤田律子さんが錦城生を指導し始めたのは、同期のインストラクターに誘われたことがきっかけだ。始めのうちは、生徒に達成感や感動を味わってもらいためにどうしたらいいか頭を悩ませたというが「楽しみやワクワクがいつか『楽しい』をしようと思った」と話してくれた。

錦城生について「男子校の時からずっと、やる気がある元気が印象。みんな自主性があって感心しています」と話す。

岸さん。最後に「都市部は自然を感じる機会が少ないと思うので、ぜひスキーを通じて蔵王の自然に触れてほしいです」と締めくくった。



あったか玉こんにゃくで一休み

山形名物といえば玉こんにゃく。ホテルからほど近い蔵王銘品館能登屋の玉こんにゃくをいただきました。注文すると、目の前で熱い鍋の中にある球状のこんにゃくをへらを使って、スッスッスッ素早く串に刺し、辛子をつけて手渡してくれました。いざ、実食……。口に入れると、まず、出来立ての印が。「あっつ!」。一挙に体中に熱さと辛さが突き刺さり、体がびったりの一品でした!

店員の五十嵐美貴彦さんによると、店によって使う醤油やだし、作り方が異なることもあるため、味も異なるそう。山形に行った際には、ぜひ食べ比べてみては?(菘)

グラフィティ in 蔵王!!



インストラクターさんへ 合唱のプレゼント!



蔵王で錦城生を待っている方がいます

蔵王山の噴火警戒レベルが引き下げられ、今回2年ぶりに蔵王へ戻ってきた。56回生のスキー旅行ということで、再び蔵王に来てくれたことを心の底から喜んでいる方がいる。松金屋アネックスの女将、斎藤優子さんだ。

錦城は創立以来、蔵王でスキー旅行を行っており、斎藤さんも1回生の代から錦城生を迎え入れてきた。斎藤さんは1年の中で、冬に錦城生が来るのが1番の楽しみだという。錦城生が蔵王を訪れる1か月前から緊張するそうで「初日を迎えられたときによく安心します。最終日に『楽しかった』と言ってもらえた時には、涙ぐんでしまいます」と語る。「錦城生は礼儀が正しくとても良い子たちで、先生との仲がよい印象をもっています。毎年、そんな錦城生の笑顔に元気をもらっています」とほほ笑んだ。

悪天候により予定が変更・中止になってしまったりしたが、錦城と地域やインストラクターとの繋がりがより深まった5日間。この伝統あるスキー旅行の裏側で、錦城生は様々な方々に見守られていた。(菘)